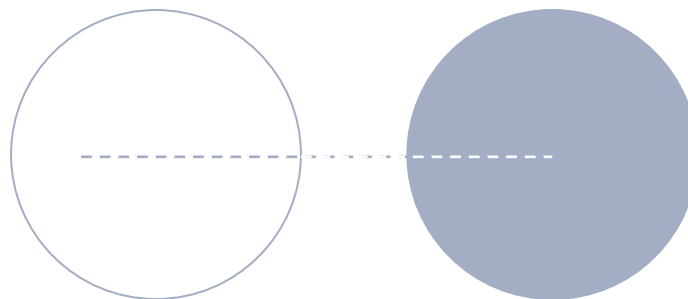




# 坂井市公共施設個別施設計画 第2期改定について



# 計画の背景と目的

## 【計画の目的】

公共施設等の**老朽化**及び**人口減少・少子高齢化**が進む中、公共施設等の機能を維持しつつ、可能な限り**次世代に負担を残さず**、**持続可能な財政運営**を将来にわたり維持していくために、**効率的・効果的な公共施設等の最適な配置**を実現する。

## 【計画期間】

平成28年度～令和27年度までの**30年間**の施設計画であり、**270施設**についての現状、今後の方向性等を3期に分けてまとめている。

**(第1期：H28～R7 第2期：R8～R17 第3期：R18～R27)**

## 【計画の位置づけ】

別紙1のとおり

# 計画の背景と目的

## 【計画の全体目標】

公共施設等総合管理計画の「**延べ床面積を30年間で20%縮減（財源不足額635億円の縮減）**」を目標と設定。

※現状施設すべてをそのまま更新した場合、**更新費用は1,611億円（更新費）＋1,500億円（ランニングコスト）**が必要であり、確保可能な財源を考慮すると**30年間で635億円が不足**すると試算。

※面積20%縮減は、財源不足額（635億円）から算出。これはコスト（お金）のお話。

## 【策定時点での結論】

現在の個別施設計画の中でのマネジメント（各施設の方向性：集約化、複合化、廃止等）が進んだ場合、面積縮減は20%に届かず**7.4%縮減**に留まるが、必要な**費用を30年間で30.7%（954億円）縮減できる**見込みとまとめている。

# 現状の課題

- 施設数は削減されている（270施設→256施設 別紙2）が、  
面積縮減はわずか2.8%止まり
  - ※全国的にも施設削減は進まず、増加傾向の自治体も存在
  - ※これから予定されている新規施設もここに追加されてくる
- 費用の削減見込みがコロナ禍以降、物価高騰で大幅減少（別紙3）
  - ※30.7%（954億円）という当初の縮減見込みは、今後の第2期・第3期の20年間を推計すると、16%（500億円）まで縮んでしまっている（目標は635億円不足の解消なのに。）
  - ※維持更新費は人件費・物価高騰で増加傾向（年2.5%～3%の推計）  
（建設コストについては、コロナ禍以降年平均4～5%上昇との推計もあるが・・・）

# H28～R27の30年間の必要経費

3500

3000

2500

2000

1500

1000

500

**635億円不足**

この不足額解消が  
計画の目標！

確保可能財源  
2,476億円

3,111億円

【前提】当時の施設をすべて更新した場合

954億円縮減の見込みだったが..

コロナ後の急激な物価上昇

今後の新規施設

134.2億円+今後の新規分が依然として不足

2,156.8億円

第1期策定時の見込み

2,156.8億円

+今後の新規施設分

第2期改定時点の見込み

$635 \text{億} \div 3,111 \text{億} = 0.204$   
削減目標 20%

# 第2期改定の方針

- 面積縮減目標（20%）は堅持

※物価上昇後の試算をすると、

不足額をクリアするには約20%の面積削減が必要

- 面積の削減はただの手段であって、目的はコストの縮減



①そもそも施設数も多いので、現状整理と施設の在り方（廃止・集約・複合化・・・）を改めて見直すことが必要

②予防保全による適正管理・長寿命化

# 第2期改定の方針



## ③体制の見直し、DX化、ESCO等の活用による運営費・改修費の削減

例) DX化を推進することで人員の削減や無人化を図る。

また、空調等を修繕周期に合わせて更新していくにはESCO方式の採用等、実質負担を出さずに更新するなどの工夫。

併せて、受益者負担の見直し。

## ④新設・大規模改修時はライフサイクルコスト意識の徹底（別紙4）

※施設にかかる費用は、イニシャルコストよりランニングコストが圧倒的に多くなることから、人口規模に見合った施設規模にしていくことが重要。

# 今後の対応とスケジュール

< 詳細は別紙 5 参照 >

- 所管課への更新案作成依頼→ヒアリングによるすり合わせ
- 行革協議会、議会への説明
- パブコメの実施 →改定
  - ※総合管理計画の必要な箇所の改定も
  
- 今後は、施設カルテの年次更新で進捗管理→見える化・共有化
  - ※予算措置や予防保全、ESCO、包括管理委託、民間提案制度等のPFI検討材料として使用

# 最後に 『公共施設の可能性を可視化する』

既存の公共施設は、目的別、所管別に細かくセクション分けされ過ぎていて、もったいない空間が多々あります。新しい建物を求めなくても、工夫次第でいくらでも可能性があるのではないのでしょうか？

でも、机上の議論だけでは、そこは見えてきません。

ですので、決定事項として実施するのではなく、例えば1週間だけでもいいので、仮で空間に変化を作ってみる。ダメだったらやめて、別のことを次々試してみる。

例) 図書館と広場をつなげてみる、庁舎アトリウムでイベントをやってみる etc

そんなちょっとした実験を色々やっていこうと考えています。『「廃止」や「統合」かもしれないけれど、そこにはもっと今より楽しいことが待っている』ということを暫定利用により視覚的に訴えていくことで、施設の在り方の見直しを進めていきます（指定管理者、民間事業者、市民も巻き込んで）。